

調査報告概要表

作成日 2007年10月3日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4670800269
法人名	医療法人 吉祥会
事業所名	グループホーム美楽居
所在地 (電話番号)	出水市平和町347 (電 話)0996-63-8000

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成 19 年 10 月 3 日

【情報提供票より】19年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10 人, 非常勤	5 人, 常勤換算 13.2

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造モルタル 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	名 要支援2 名				
年齢	平均 88.2 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉井中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

出水市内の交通の便の良い場所にあり、隣接して同法人の病院・老人保健施設など多事業所がある。医療面での連携はもとより、地域との関わりも積極的に持ち、利用者や家族の信頼が厚いホームである。利用者がその人らしく安心して尊厳を持って暮らすことを大事に考え、ケアに必要な知識・技術を身につけるための研修に力を注いでいる。また、職員全員が毎年自己の評価を行い、管理者と面接をするという仕組みを取っており、ケアの質向上に対する意識が高い。利用者は、明るい採光の中で穏やかな笑顔で過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の明示に関して、重要事項説明書に記載するとともに、ホーム内にも掲示している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者で行い、後日職員が自己評価票を確認することになっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員や地域の代表者・利用者家族等に対して状況報告をするとともに、行事に関することや様々な事柄について意見をだしてもらい、地域の協力体制の強化を図っている。開催が3ヶ月に一度となっているため、今後は2ヶ月に一度の開催を目指している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を一年に一度開催し、意見を引き出す努力をしているとともに、出された意見等に関してはクレーム委員会で検討し対処するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者及び職員は地域の行事に参加し、地域の方々には法人が開催する行事に参加してもらうことで、交流や連携に努めている。また、学生の職場体験を受け入れたり、近隣のお店で買い物を行う等、地域との関わりを積極的に持つようになっている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	併設の老人保健施設と共有の理念があり、ホーム独自の「品質目標」の掲示をしている。現在、職員間で介護理念について検討をしている。	○	引き続き検討し、地域密着型サービスの役割を理解したうえで、果たすべき役割を反映した理念をつくりあげていくことを期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週、朝礼の後に唱和するとともに「接遇マニュアル」を読み上げ、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域行事に参加し、近隣の方々には法人合同の夏祭りに参加してもらう等して交流を図っている。学生の職場体験を受け入れたり、地域のお店で買い物をする等、様々な機会を作って積極的に関わりを持つ努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、評価の意義を理解しており、前回指摘された項目について検討し解決を図っている。今回の自己評価については管理者で行い、後日職員が確認するという形をとっている。	○	評価は、一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識あわせ、ケアの振り返りや見直しが可能となるため、今後は管理者のみならず全職員で自己評価に取り組んで欲しい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員や地域の代表者・利用者家族等の協力的な参加により開催し、行事報告や防災協力の依頼などを行うとともに、それぞれの立場からの意見をもらいサービスの向上に活かしている。	○	会議開催が3～4ヶ月に一度となっているので、地域密着型を勧奨した上で2ヶ月に一度の定期開催が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課への行き来があり、地域のグループホーム連絡協議会への出席依頼をする等、積極的に働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭出納報告とともに、利用者の身体状況や行事についての細かい項目を作成して記入し、家族へ送付している。職員の異動については、「美楽居新聞」にて知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に一度、新年会として開催して意見をきくようにしている。また、家族が意見や不満を言いやすいよう雰囲気作りに配慮するとともに、出された意見等をノートに記載し、月に一度のクレーム委員会にて検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動も配慮の上実施しており、退職者もなく、利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を設置し、外部研修や職員間の勉強会を積極的に行うとともに、毎年職員の自己評価を実施している。段階に応じた個人目標を設定し、管理者による評価制度も導入している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム協議会を設立し、勉強会や交流を行っている。相互見学会にて、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に見学に来てもらうように働きかけており、病院や施設からの利用となる場合は管理者が面会に行き、安心感を持ってサービス開始となるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を守る努力をしながらともに過ごし、料理や野菜の選び方等、日常生活の中で利用者に教えてもらう場面を多くしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での観察を徹底し、気づいたことは「気づきノート」に記入し、意向の把握に努めるとともに、対応についてまで検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居すぐに暫定プランを作成し、その後一月以内に介護計画を作成している。介護計画を作成する際は、本人や家族の意見をもとに担当者が作成し、責任者がチェックするという体制を取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、個人記録の中に整理している。状態に変化がある場合は、その都度必要に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、疾病の早期発見に力を入れている。また、受診介助や希望により墓参りなどの外出介助サービスも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては、利用者及び家族の希望を大事にしている。法人内病院が24時間体制で支援をし、医師とも常に連絡が取れる状況を整えて医療連携にあたっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同法人の病院が隣接し、急変時の対応はできる仕組みになっている。「重度化した場合における対応に関する指針」の作成はあるが、看取りを含む終末期のケアに関しては今の所は行う予定はない。	○	重度化に伴う本人や家族の不安も大きくなることから、出来るだけ早期に話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図って欲しい。また、ホームの体制として終末期ケアをしない場合は、サービス開始以前に理解と同意をもらえるよう、明文化を検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては、法人全体で研修するとともに、実際に利用者家族の希望によっては面会制限も行っている。言葉かけや居室入室時の徹底に注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を認知症の人と捉えるのではなく、一個人として利用者が望む過ごし方を支援するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは能力に応じて行ってもらい、利用者と職員が同じテーブルにつき、楽しい会話の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の気分や状態により、好きな時間帯に入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事当番を決め配膳をしてもらったり、買い物・洗濯物たたみ等、生活力を活かしている。また、お酒を嗜む利用者もあり、それぞれの楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩等は適宜支援をしており、食材の買出しやドライブ等も行っている。また、地域行事にも参加するよう計画に入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し、鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。玄関には訪問者用にチャイムを取り付けているが、利用者の出入りは職員が把握するよう意識づけをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練のほか、昼だけでなく夜間を想定した避難訓練を行っている。また、緊急時には近隣に協力をもらえるよう声かけを行っている。備品の設置はあり、備食は隣接の老人保健施設に保管している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量と毎月の体重の記載を認め、栄養士による献立作成や栄養バランスの管理も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外光がよく入る明るい室内であり、玄関から居間にいたるまで家庭的でくつろげる空間となっている。居間のソファでは、それぞれが自分の居場所を持ち、温かい雰囲気を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品は多くはないが、利用者それぞれに過ごしやすいシンプルな空間となっている。		